

【部会・分科会活動報告】 2017年7,8月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) <u>芽胞菌研究分科会</u></p> <p>(2) <u>MALDI-TOF MS 研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> カビ分析法のスタンダードプロトコルの進捗について、NITEとの第3回会議（10/17もしくは24）を予定。 <p>(3) <u>チルド勉強会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 海外チルド食品ガイドライン等の勉強会（10/11）を予定。 <p>(4) <u>飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国清涼飲料工業会の広報委員会と ILSI 参画企業の連携活動として、お客様向けハンドブックが8月末完成した。同様の内容を動画でも作成中。 <p>2. 2017年度第3回部会全体会議と勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時：9月28日（木）13:00-17:00 場所：不二製油(株)阪南事業所 部会：分科会報告、シンポジウム関連等 勉強会：日本食品分析センター学術顧問 浅尾先生 「指標菌の有用性と限界（仮題）」 <p>3. 食品微生物研究部会主催 2017年度公開シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> 題名：HACCPを支える微生物検査とその最新技術 演者：①東海大学教授 荒木先生、②農研機構 川崎先生、③食品産業センター 柳平先生、④NITE 川崎先生、⑤東京海洋大学教授 木村先生 日時：12月15日（金）10:30-17:10 場所：東京大学 弥生講堂一条ホール 対象：一般（先着250名、HPより参加申込み） 参加費：5,000円、学生1,000円
	食品リスク研究部会	<p>1. 部会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時：2017年7月14日、13:30~15:00 場所：サントリービル <p>2. 勉強会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時：2017年7月14日15:30-17:00 場所：サントリービル 講演者：藤渕 航（ふじぶち／わたる）先生（京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門理論細胞解析分野） 演題：「ヒト ES/iPS 細胞を用いた新しい簡易毒性試験とコンソーシアムの実現に向けて」 <p>3. 部会活動に関する意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月21日（金）東京農大教授/ILSI Japan 理事の中江先生を安川理事、宇津事務局長、徳田事務局次長、真鍋部会長で訪問、今後の部会活動に関して意見交換を行った。
	香料研究部会	
バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2017年度 第4回目の会議を8月9日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第34号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) COMPARE（既知アレルゲンデータベース）について。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI HESI よりデータベース紹介用のプレゼン資料を入手し、9月初旬に関係省庁の担当者を訪問し説明することとした。 (3) GM 微生物食品について <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度精製食品について、新たな評価方法の試みがなされている旨が森下氏より報告された。 (4) GM 作物について <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月10日開催のゲノム編集ワークショップについて、約270名が参加し、今後「イルシー」誌並びにホームページにおいて開催報告をする旨が報告された。 ・ 今秋予定されていた ERA 勉強会について、論文投稿の準備状況に合わせて時期を再検討することが話し合われた。 (5) 今後の勉強会について <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代シーケンスのリスク評価への活用について勉強会を開催することとなった。 <p>2. ERA プロジェクト調査報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第33号は9月発行に向け準備中。 ・ 送付リストの見直しを行うこととした。 <p>報告 No.151-300 の集約版は34号と一緒に10月に発行することとした。</p>	
栄養健康研究会	<p>1. 『第9回ライフサイエンスシンポジウム(テーマ:栄養と運動)』の開催に向けて、プログラムの構成についてアカデミアの先生からアドバイスをいただくため、2017年7月21日に国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 宮地元彦先生を訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ:「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合 — 基礎研究から応用研究まで —」となった。 ・ シンポジウムは1日とし、2018年7月26日(木)7:30~18:30で東京大学弥生講堂一条ホールを予約した。 ・ 8月9日に、宮地先生からご提案いただいた先生方に講演依頼状を送付した。 <p>2. 今後の方針について</p> <p>9月に再度宮地先生を訪問し、先生からアドバイスをいただきながら、シンポジウムのプログラムを立案・作成していく。</p>	
	GR プロジェクト	第3回多施設試験の再追試を4施設で実施。
	茶類研究部会・茶情報分科会	<p>7/14 分科会 打合せ</p> <p>1. 茶類の有効性・安全性情報の発信に関して システムティックレビュー (<i>Eur. J. Clin. Nut.</i> に発表した論文の日本語版) の「イルシー」誌への投稿。7/14 打合せで組版した初稿に対して修正議論を行った。「イルシー」誌に掲載済。 <i>Toxicology Letters</i>に掲載された Dekant らの論文に関して、情報共有。EFSA への情報提供の進捗共有。</p> <p>2. 紅茶の成分テアフラビンなど有効成分に関する研究 テアフラビンの分析法標準化に関する ISO の動向の共有。 分科会内でも情報を共有する。</p>
食品機能性研究会		
	寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第Ⅲ期寄付講座(2013年12月開始、5年間)研究進行中。

健康な食事研究会	ワーキンググループ 1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	7/13 に会合開催、活動方針を議論（全体会合の項に記載）、サブリーダー選任
	ワーキンググループ 2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	7/14 に会合開催、WG 内のルール決め、活動方針を議論。外食・中食・給食企業のインタビューを行う前に、研究会内の関係者から聞き取りを行うことに決定。
	ワーキンググループ 3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	7/10 に会合開催、活動方針を議論、また、社会実装の先行事例を共有した。事例は、カゴメ、花王、生活習慣病予防研究センター；岡山明先生。 8/21 にも会合開催、活動方針・内容・アウトプット等について意見交換。実装の評価指標の設定に資するべく、行動変容プロセス評価視点を村山先生（新潟県立大）に講演依頼する。
	研究会全体	<ul style="list-style-type: none"> * 第 2 回研究会（7/14）： <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の組織確認；3つのWG、アドバイザーボード、事務局。会長は宮澤先生。 ・WGの活動方針 <ul style="list-style-type: none"> ◇ WG1；文献検索に特化。検索式は食事（食品・成分、食事パターン・スコア）×健康・病気（生活習慣病、認知症、サルコペニア）。内外の英語の疫学研究論文が対象。考察において日本人の特性を議論。 ◇ WG2；外食・中食・給食企業の現状取組をインタビューで調査。10月に3社程度試行。 ◇ WG3；自治体、企業・業界、大学での実装の事例の調査、システムティックレビューによる日本食の有用性検証、狭い領域での介入研究を実行したい。 * 健康な食事研究会 研究セミナー：農水省革新的技術創造促進事業 H26-H28 ―世界の健康に貢献する日本食の科学的多面的検証― 8/21 に花王(株)すみだ事業場にて開催した。出席者 36 名。 * 研究費の調達について アカデミアメンバーを中心に公的資金獲得の方策について議論継続中。同時にいくつかの財団からの助成の可能性も検討中。 * 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・WG 活動継続 ・研究費調達検討の継続 ・第 3 回研究会：10 月末～11 月半ば予定
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	◇ テイクテン (TAKE10!®) 7/10 震災被災地支援：いしのまきテイクテン（石巻専修大学） 7/11 震災被災地支援：いしのまきテイクテン（北上地区仮設にっこりサンパーク団地集会所、宮城県） 8/24 自主サークルなでしこテイクテン（中ノ郷信用組合立花支店、墨田区）
	Project SWAN (Safe Water and Nutrition)	8/15 SWAN3：水処理施設 5 か所の点検を実施（ハナム省予防医学局 8 名，ハナム省，ベトナム）
	Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)	特になし
	CHP 全体	特になし

国際協力委員会	<p>部会開催（7月26日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. BeSeTo 会議プログラムの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、BeSeTo 会議および、それに先立ち開催されるサテライトシンポジウムのプログラムの説明がされた。 2. BeSeTo 会議における日本からの演題および演者の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・前回の部会で議論したことに少々修正を加え、新演題を含め日本からは以下7演題発表することに。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「食のリスクコミュニケーションの課題」[高橋 (ネスレ)]、 2) 「酵素の健康影響評価指針」[滑川 (ナガセ)]、 3) 「食品部生物研究部会の戦略と活動の実際 (MGS, MALDI-TOF/MS 等) [佐藤 (花王)]、 4) 「食品安全を担保するための現在の課題」[中江 大先生]、 5) 「日本での HACCP の義務化に向けての課題」[厚労省監視指導課 福島和子様]、 6) 「保健機能食品の最新動向」[菅谷 (花王)]、 7) 「BeSeTo 会議の今後の方向性に関して」[高橋 (ネスレ)] 3. BeSeTo 会議当日の役割分担と当日までのロードマップ確認 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局および国際協力委員会のメンバーで当日の役割を分担することに。 4. BeSeTo 会議の方向性案をまとめた <ul style="list-style-type: none"> ・事前に委員に対して意見を求め各委員に共有。事前の意見と当日の議論を基に、日本からは3つの方向性案を提案することとし、委員長がマテリアルを作成し事前に委員に共有して確認することにした。 <p>BeSeTo 会議（8月31日午後～9月1日）およびサテライトシンポジウム（8月31日午前）開催</p> <p>サテライトシンポジウムには60名を超える参加があり、日中韓の3か国の専門家による「食物アレルギー」をテーマにした発表および質疑応答後、パネルディスカッションが行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Labeling regulations on food allergy in Japan - Dr. Hiroshi Akiyama : Head Division of Foods, National Institute of Health Sciences ・ Food Allergen Management in China - Dr. Yongxiang Fan : Head, Division of Food Safety Standard I, China National Centre for Food Safety Risk Assessment ・ Food allergen Management in South Korea - Ms. Heejung Lee : Senior Researcher, National Food Safety Information Service <p>続く午後からの BeSeTo 会議には、日本の他 ILSI の各アジア支部からの参加者総勢50名超があり、各演者による情報共有および活発な意見交換が行われた。</p> <p>8月31日午後の会議での日本からの演題および演者は以下の通り（発表順）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Food risk communication - Ms. Tomoko Takahashi : ICC ・ Guidelines for risk assessment of enzymes used in food processing - Mr. Keisuke Namekawa : ICC <p>概要については「イルシー」誌で報告予定。</p>
情報委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会開催2回（7, 8月） 2. ホームページ

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新（随時） 3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 巻 4 号（通巻 97 号）：編集（8/10 刊行） ・ 26 巻 1 号（通巻 98 号）：翻訳、監修、編集（11/10 刊行予定） ・ 8/29 編集委員会開催（通巻 99 号の採択論文・翻訳者候補決定）
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イルシー」誌 131 号 7 月刊行、132 号原稿査読・編集

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 3 回理事会が平成 29 年 7 月 25 日（火）15 時より開催された。</p> <p>決議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新理事就任の件 <p>古野理事の後任として、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事の阿部圭一氏が理事に就任することについて全員一致で承認した。</p> 2) 特定非営利活動促進法の改正への対応と定款変更の承認 <p>特定非営利法人促進法の改正内容の説明があり、その対応として当機構は毎年の貸借対照表を当機構のホームページに掲載して公告すること、またその旨を定款の第 8 章公告の方法の条文に追加することの 2 項目を提案し、特に異議なく承認した。</p> <p>報告・討議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康な食事研究会進捗報告 <p>3 つのワーキンググループ（WG）活動方針、WG 間の連携の在り方、研究会のルール、「健康な食事研究会の研究セミナー」の案内等が報告された。</p> 2) 発展型 ILSI 新寄付講座創設について中間報告 2 <p>当初「食のリスク」、「食の健康」の 2 テーマに絞り議論をしたが、社会課題と産業機会、オープンイノベーション、独自性の観点から事務局内で再度議論した結果、産業界の関心がより強いのは「食と健康」分野であり、かつ「ビッグデータ×AI（人工知能）」が大きなキーワードとなり、独自性が高く先頭を走る研究実績と産業機会から候補の一つとして弘前 COI に着目し、このディープデータと健診や生活から得るデータを組み合わせ、AI 技術を駆使して、未病状態の見える化技術や個人に最適化されたテーラーメイド型のサービスやモノなどのソリューションプログラムを開発し、個別化予防の社会実装につなげる。このために弘前データの補完が必要となり、これを ILSI Japan の寄付講座で実施する、と報告した。この方向性や内容について、各理事より質問、意見が多数出た。</p> 3) BeSeTo 会議（8/31～9/1 開催予定） <p>今年サテライトシンポジウムのテーマは、「食品アレルギー」で、新たに「今後の BeSeTo 会議の在り方」も討議する。</p>
-----	---

	<p>4) 研究会・研究部会の支援 全体の収支予測と各研究会・研究部会の収支実績から、仮に均等支給した場合の支給額の目安を事務局が提案した。各研究会・研究部会より活動計画&概算要求を提出してもらいそれを理事会で審査し、支援額を決めるとの確認があった。 また、当機構として保有すべき繰越金を提案し、会費収入がなくても人件費家賃等の支払が可能な金額を残す案が採択された。</p> <p>5) Mandatory Policies の実行 ILSI Japan の Mandatory Policies を策定したので 確認いただきたいとの説明があった。すでに利益相反に関する開示書は各理事より入手、完了している。</p> <p>6) ILSI 全体のガバナンス強化策 ILSI 全体のガバナンス、マネジメントを強化する為に、本部と支部の間に、各支部の事務局長から構成される組織体 ILSI Management Team を設立し、今まで本部で実行してきた役割を一部移す方向が決定されたと報告した。</p> <p>7) 滞留「イルシー」誌の廃棄 2009 年発行以後の「イルシー」誌の在庫を当事務所にて保管しており、ここ 3 年間 2009 年～2011 年発行分は出荷がなく、保管スペースも不足しており、順次廃棄処分したい旨提案し、承認された。</p>
事務局	特になし。